

平成29年度 狭山市立南小学校学校関係者評価表

※ 学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方針について評価する。

※ 【評価の目安】

- A：よくできている。(90%以上)
- B：概ねできている。(85%以上)
- C：あまりできていない。(70%以上)
- D：できていない。(70%未満)

領域	番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員から 評価(文章表記)
			評価	説明	
学校運営全般	1	学校の重点目標が明確である。	A	・全教職員が校長の学校経営方針の遂行に努めている。 ・ほとんどの児童が、学校に楽しく登校している。(保ア:A61%、B36%)	・児童のほとんどが楽しく登校できている。そうでない児童の配慮をお願いしたい。 ・設備の老朽化は否めないが、大事に使われていると思う。行政は、もっと教育に予算を充てるべき。 ・教職員は、教育目標達成のために努力している。 ・学校の課題解決に向け、教職員が共通理解・共通行動できている。
	2	児童は、学校生活が楽しいと感じている。	A	・教師自らが学ぶ意欲と情熱があり、心豊かな教師を目指している(A46%、B50%) ・後片付けを含め、【3あ運動】の結果には課題がある。	
	3	教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	A	・教育環境の施設設備は、(保アA22%、B67%、C10%)となっている。校舎の老朽化に伴い、遊具・水まわり関係の施設管理が課題である。	
	4	清掃が行き届き、学校がきれいである。	B	・体験活動や児童の興味・関心を重視した学ぶ(わかる)喜びを味わわせる授業を行っている。(A34%、B62%、C4%)しかし、全国学力調査は平均をやや下回ってしまった。学力の向上が課題である。	
	5	学校の施設・設備は安全に管理されている。	B	・学習規律の評価が(C9%)とやや厳しい学級がある。学びの土台作りを行う。 ・家庭学習の習慣が2極化している。家庭学習の習慣が身につけている(保アAB63%、CD37%)という結果から、家庭との連携が課題である。	
学習	6	教師は、児童が興味関心のもてる授業、わかりやすい授業を実施している。	A	・英語活動に児童が楽しく取り組んでいる。(A33%、B67%)	・4月当初に比べ、子供たちが、落ち着いて学習に取り組めて、素直な子に成長している。わかば学級の児童の成長も著しいと感じる。 ・学習規律を徹底させたい。 ・家庭との連携を密にして、家庭学習の定着や家庭学習の習慣化を図ってほしい。 ・自ら課題を見つけ、解決していける力を育成してほしい。 ・公民館で夏休み実施予定の、自習教室も活用してもらいたい。
	7	児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。	B	・美しい言葉、気持ちの良い言葉遣いに課題がある。(AB82%、C18%)教師自身が、児童のお手本になるような言葉遣いをしていくことが必要である。	
	8	児童は、基礎的基本的な学力を身につけている。	B	・「安全な生活」面で課題がある。(AB54%、C46%)廊下歩行や登下校の仕方など繰り返し指導をしていく。	
	9	児童は、家庭学習の習慣を身につけている。	C	・児童は、主体的に体力向上に努めている。外遊びや朝マラソンも多くの児童が進んで取り組んでいる。 ・養護教諭を中心に定期的に保健室だよりを発行し、児童へ健康の呼びかけを行っている。今後も継続的に指導をしていく。	
	10	児童は、英語活動をととして積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。	A	・学校応援団の有効な活用ができた。(A59%、B41%) ・抹茶体験、戦争体験を聞く会や昔遊びを体験する会等実年大学の方々との教育活動を行えた。	
規律ある態度	11	児童は、進んであいさつをしている。	B	・地域でも、あいさつできる子が増えている。継続した指導をお願いしたい。	・環境が人をつくる。教職員は、学校の環境を構成する重要なパーツであることを意識して教育活動に取り組んでほしい。 ・「3あ運動」の取組、今後も続けていってほしい。家庭や地域と連携し、下校後の安全の見守りも続けたい。
	12	児童は、場に応じた言葉遣いができている。	B	・「安全な生活」面で課題がある。(AB54%、C46%)廊下歩行や登下校の仕方など繰り返し指導をしていく。	
	13	児童は、時間を守って生活している。	A	・子どもたちが進んで外遊びができている。その環境が評価できる。	
	14	児童は、きまりを守って生活している。	C	・公民館でも握力向上に向けての取り組みを始めました。活用してください。	
	15	教師は、自ら手本となり、規範意識を高めている。	B	・体力面でも個人差があるが、今後も個に応じた指導をしてほしい。	
健康・体力	16	学校は、児童の体力を高めている。	A	・子どもたちが進んで外遊びができている。その環境が評価できる。	・公民館でも握力向上に向けての取り組みを始めました。活用してください。 ・体力面でも個人差があるが、今後も個に応じた指導をしてほしい。
	17	児童は、体育や外遊びに意欲的に取り組んでいる。	A	・子どもたちが進んで外遊びができている。その環境が評価できる。	
	18	児童は、健康を意識した生活をしている。	B	・公民館でも握力向上に向けての取り組みを始めました。活用してください。	
地域との連携	19	学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に提供している。	A	・学校応援団の有効な活用ができた。(A59%、B41%) ・抹茶体験、戦争体験を聞く会や昔遊びを体験する会等実年大学の方々との教育活動を行えた。	・学社連携は、どちらにとっても大事なことであり、これからも良い関係を進めてほしい。 ・いろいろな人の話を聞くことは、子供たちにとって貴重な機会である。継続してほしい。
	20	学校は、保護者や地域と連携・協力し、教育活動を行っている。	A	・学校応援団の有効な活用ができた。(A59%、B41%) ・抹茶体験、戦争体験を聞く会や昔遊びを体験する会等実年大学の方々との教育活動を行えた。	